

【クレーム情報】

汗と紫外線による変色

汗と紫外線が複合的に作用することで染料が分解され変色が生じることがある。水洗いに対応した衣類やドライマーク衣料が洗えることを宣伝文句とする家庭用洗剤、家庭用洗濯機などが普及している中で、特にこれからの季節、プロのクリーニングとして可能な限り汗を除去することが望まれる事例を紹介する。

状態

衿回り、肩、袖、前身ごろ、後身ごろなど様々な部分が紺色から赤味がかった色に変化している。色の変化は、生地を表側のみで裏側には変化はない。

原因

着用中に付着した汗の成分がドライクリーニングだけでは除去されずに徐々に蓄積したところに太陽光中の紫外線が照射し、作用したため染料が分解し、変色したものの、

定性試験によると、変色部分には、塩分やたんぱく質など汗に含まれる成分が多量に残留していることが確認できる。

気温が上がり陽射しが強い夏場は、衣類に付着した汗から水分だけが蒸発するため、塩分やたんぱく質が残留、蓄積することが繰り返されるためと考えられる。

汗の成分

汗には、環境気温が高い時に出る体温調整のための温熱性発汗と精神緊張時に手のひら、足裏などに生じる精神性発汗の2種類がある。

成分は発汗の部位や個人差などにより異なるが、水分が98%以上でそのほか、塩化ナトリウム、尿素さらに、尿酸、乳酸、アミノ酸などの有機酸やアンモニア、カリウム、カルシウム、マグネシウムなどを含んでいる。

事故の防止対策

汗汚れはできる限り除去すること。特に今回のニットシャツについては、水洗いが可能な製品であり、汗による成分が除去されれば、変色の程度が軽減されたものと推定できる。水洗いできない衣料品に対しては、スチームスポッターによる処理などが有効。

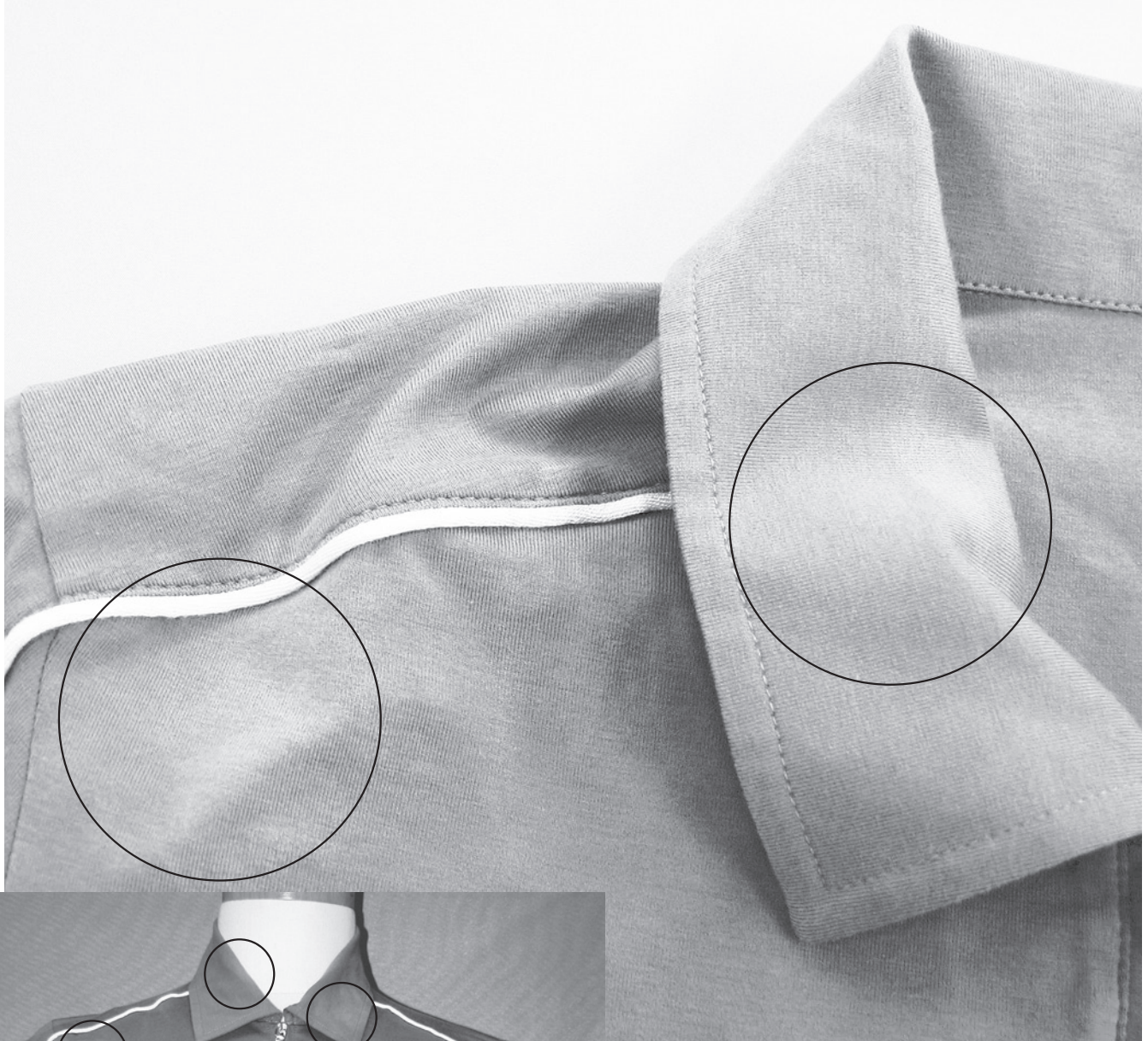
また、消費者に対しては、汗の汚れは水洗いでなければ完全に除去できないこと、などを説明するのにもクレームの防止を図る上で有効な手段と思われる。

事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」で変退色の事故を検索し、その中から汗と紫外線の複合作用が原因となっている事例を調べると、9月4日現在で登録されている事故情報115件が確認できる。

これを品目別に分けるとズボンが圧倒的に多く39件、以下シャツ類26件、ジャケット10件、素材別では綿が圧倒的で79件となっている。

この検索結果をもとに、汗の除去対策が必要な品物を絞り込んで消費者に啓発するのも事故防止システムの一つの使い方だ。



衿回りや肩など各所に赤味がかつた変色が見られる。表側のみ変色。
○内は変色部分。



- 品名…ニットシャツ
- 素材…綿92%・ポリウレタン8%
- 取扱い絵表示



- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、クリーニング回数は不明。